

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 59 矢島 潤平 (別府大学)

1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■ 年会費払い込みは便利な銀行自動引落しでどうぞ

2018年度から年会費の自動引き落としを開始します。HPから申込書をダウンロードして、「〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 一般社団法人日本健康心理学会事務局」までご提出ください。2018年3月5日(月)までの手続きで、次年度4月から払い込みの手間は一切なしになります。詳しくはウェブサイト (<http://jahp.wdc-jp.com/nyuukai/nyuukai3.html#debit>) をご確認ください。

■ 日本健康心理学会第31回大会について

来年2018年に京都橋大学にて、日本ヒューマン・ケア心理学と合同で開催される第31回大会は、開催日が6月23日・24日となっており、例年よりも早まっております。大会参加申し込み、および研究発表申し込みのスケジュールも早まっておりますので、詳しくは大会ウェブサイト (<http://jahp.wdc-jp.com/conf/31st/>) をご確認ください。

■ 「国際学術雑誌」投稿支援制度について (研究推進委員会より)

2017年度の助成対象の1件を以下の通り決定いたしました。誠にありがとうございます。なお、2017年度の支援は残り1件となりますので奮ってご応募ください。詳細は学会HP (<http://jahp.wdc-jp.com/support/index.html>) をご参照ください。
対象者: 原田 和弘 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科)
雑誌: Health Psychology
タイトル: Distance from public transportation and physical activity in Japanese older adults: The moderating role of driving status

2) 健康心理学コラム Vol. 59

「唾液中バイオリジカルマーカーを使って健康状態を把握する」
矢島 潤平 (別府大学)

健康心理学の研究では、心身の状態を把握するために主観的指標である質問紙に加えて、脈拍や血圧などが客観的指標として用いられています。私は、大学院生の頃からこれら指標に加えて、唾液中のバイオリジカルマーカーを用いて実験室でのストレス研究を続けてきました。今回は、唾液中バイオリジカルマーカーを紹介いたします。

唾液は、血液に比べて、測定できる指標は少ないですが、採取方

法が簡単のため、対象者への負担が少なく、協力が得やすいというメリットがあります。私たちの研究グループでは、唾液から、ストレスホルモンの代表であるコルチゾール、免疫物質の一つである s-IgA、脳内ノルアドレナリン神経活動を反映する MHPG を指標としています。これら指標は、心身の状態や変化を反映しているため、実験室場面での心理生物学的ストレス反応の変化、臨床場面での症状の把握など幅広く活用できます。

コルチゾールと s-IgA は市販されているキットで前処理をしてマイクロプレートリーダー、MHPG は GC-MS という機械を使ってそれぞれ測定しています。測定では、種類の異なるマイクロピペット、ピーカーやメスシリンダーなどの器具を駆使して、一つ一つの作業を丁寧かつスピーディーに行っています。測定は1日がかかりと時間はかかりますが、結果が数値で即座に示されるので、やりがいがあります。

これまで基準値からの変化を捉えることで、ストレスのメカニズムを探ってきました。今後は、健康心理学の主要テーマである、ポジティブ感情や健康を維持している状態を捉える指標として利用できないかと考えているところです。

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>